

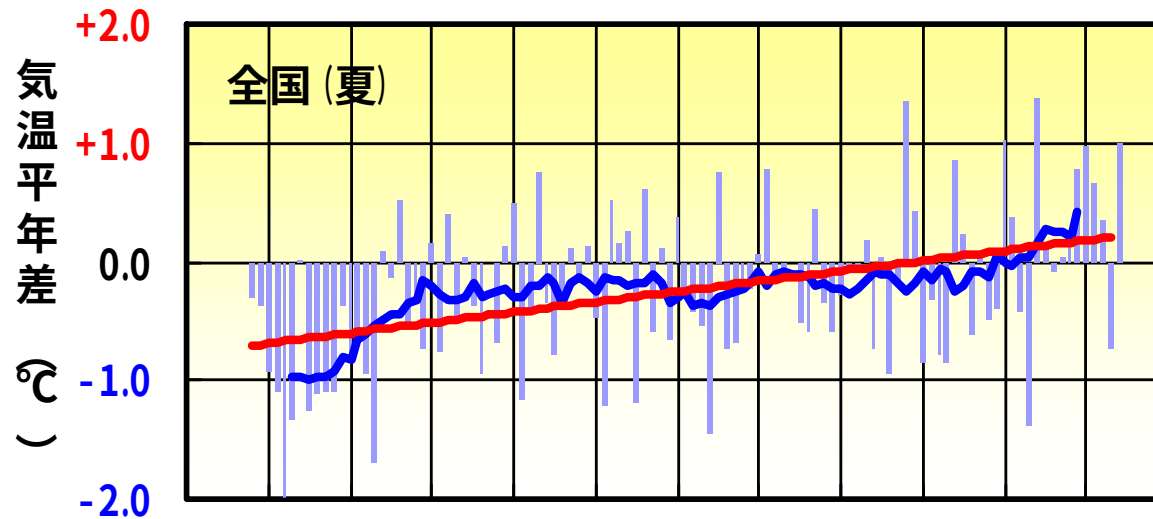
近年の気象と温暖化について（補足）

－7-8月の気温と全天日射量について－

気象庁 諸岡

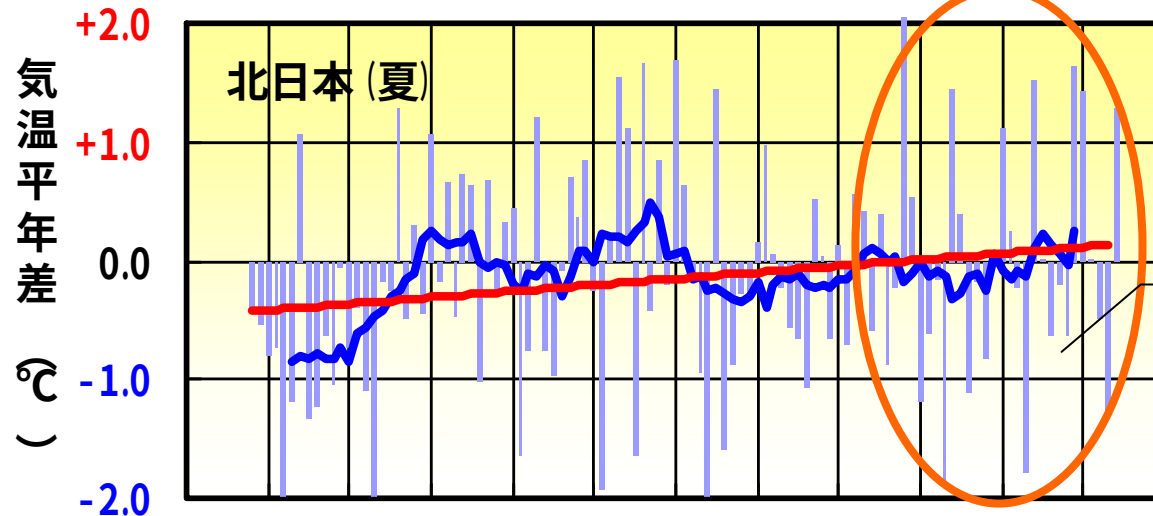
夏 (6-8月) の平均気温の変化

全国



100年当たり
0.87°C上昇
(統計的に有意)

北日本

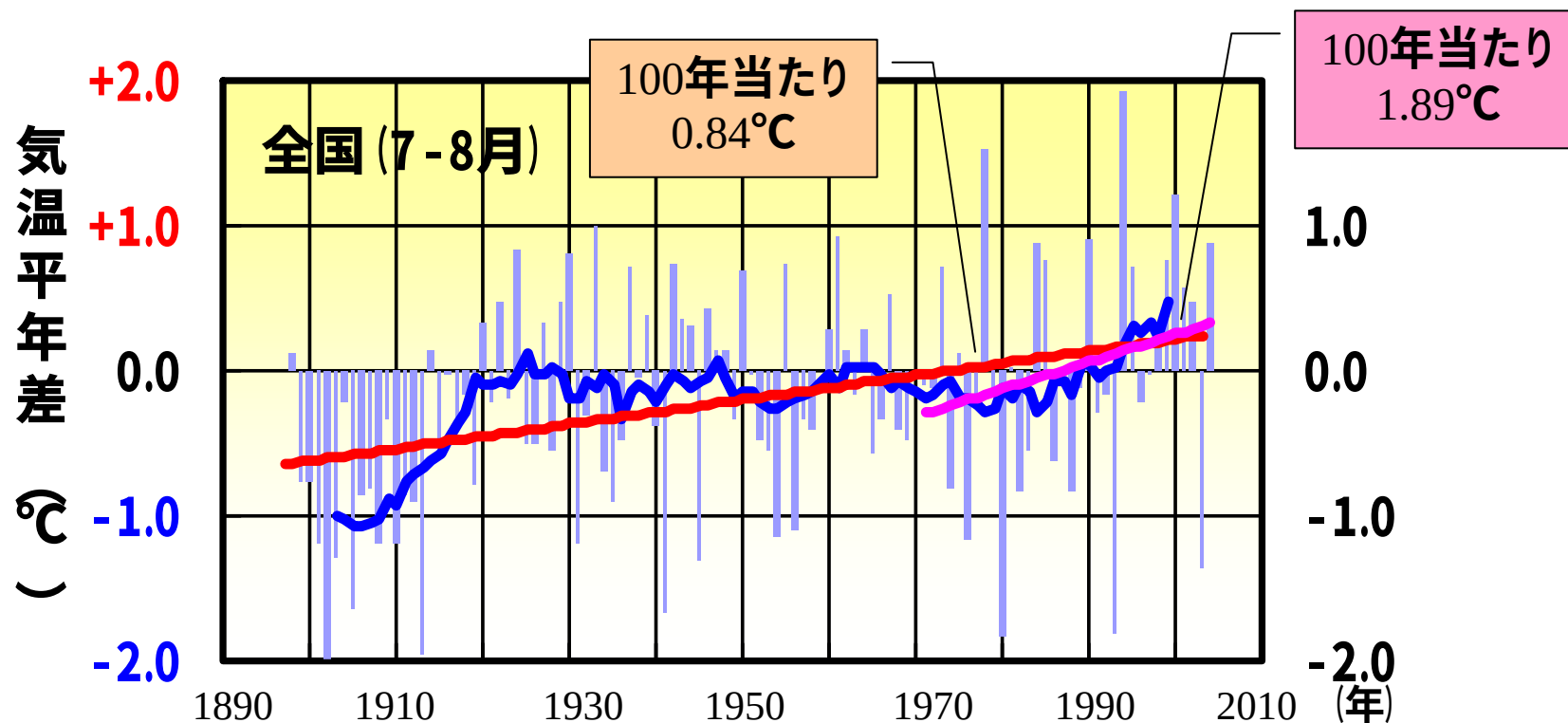


100年当たり
0.53°C上昇

猛暑および
冷夏の出現



7-8月の気温上昇 (1898年～ vs 1971年～)



最近30年で見ると、

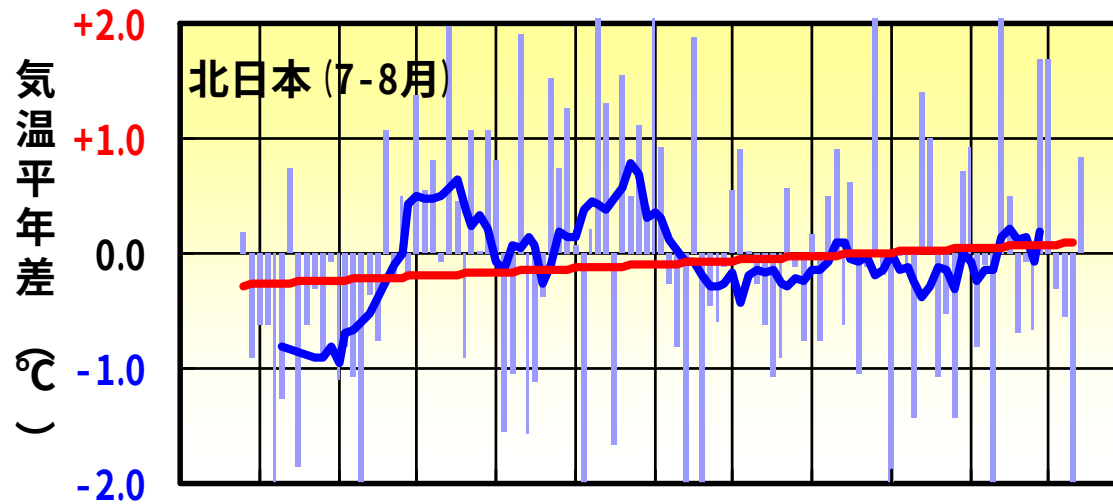
(地球温暖化) + (10年～数10年周期の変動)
で気温上昇率が大きい

赤: 1898～のトレンド
紫: 1971～のトレンド

「異常気象レポート2005」より

7-8月の平均気温の変化

北日本

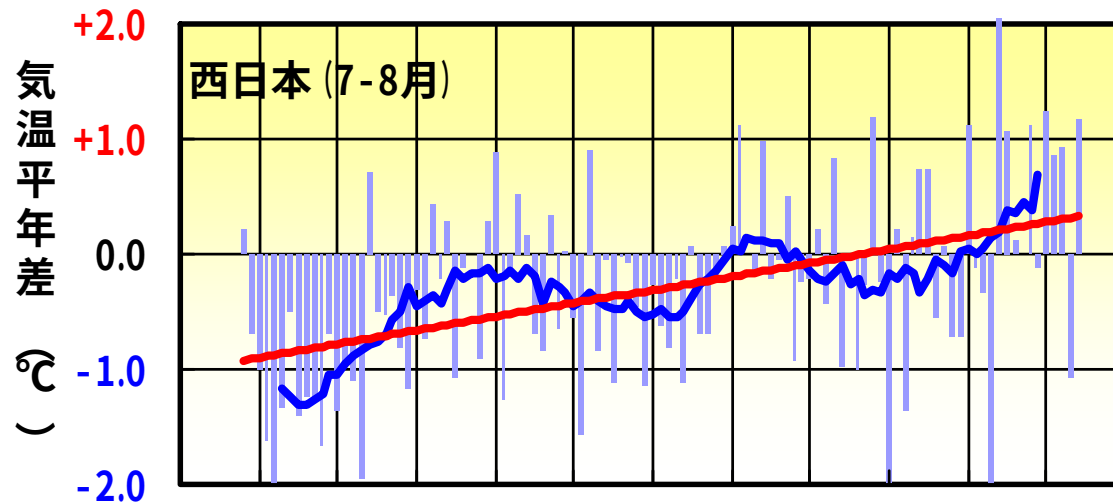


100年当たり
0.35℃上昇

(統計的に有意
ではない)

0.53℃ (6-8月)

西日本



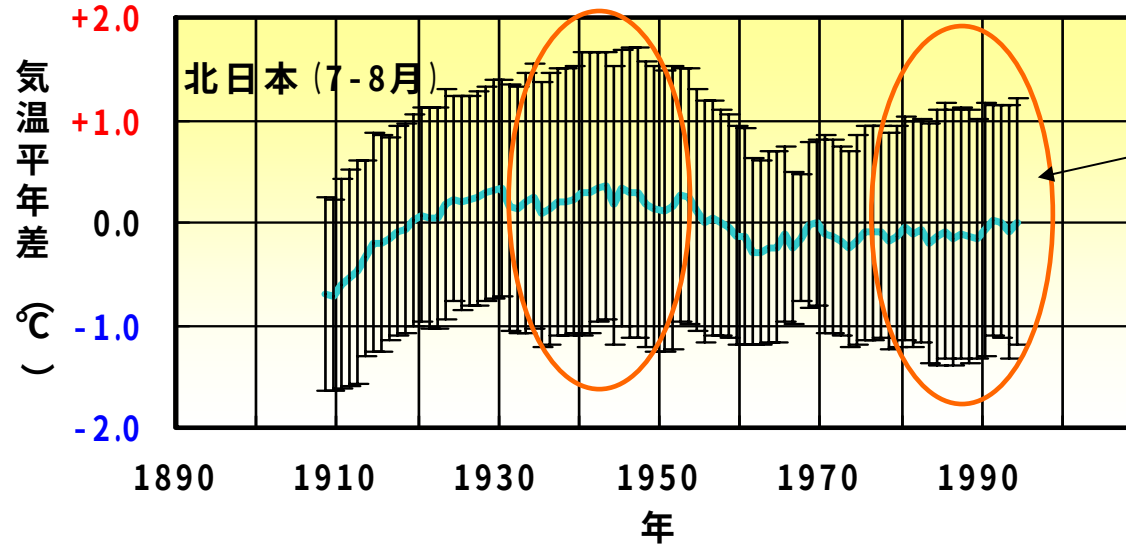
100年当たり
1.17℃上昇

1.12℃ (6-8月)

1890 1910 1930 1950 1970 1990 2010 (年)

7-8月の平均気温の標準偏差

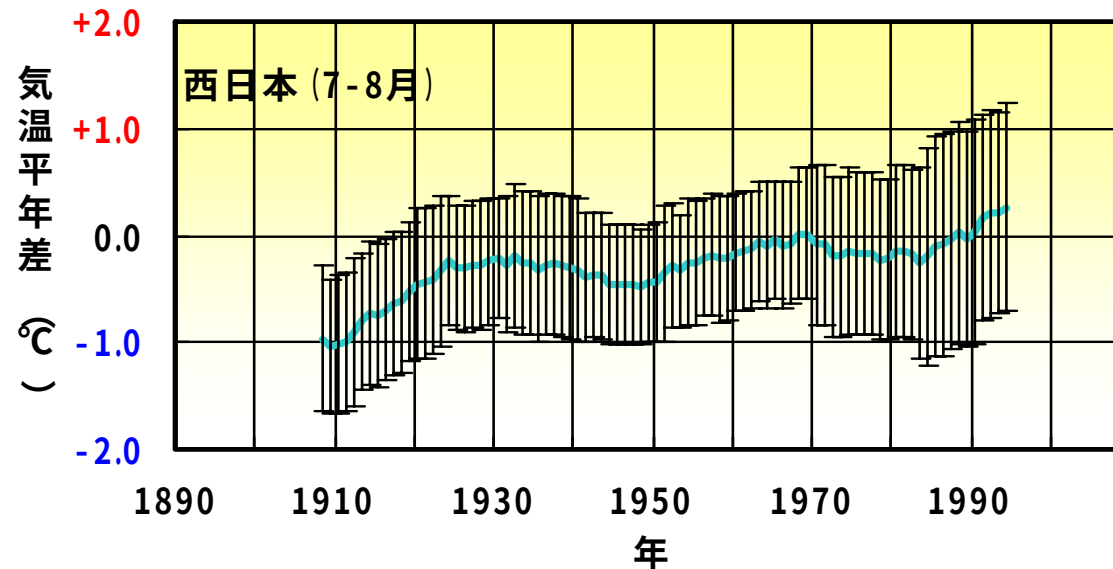
北日本



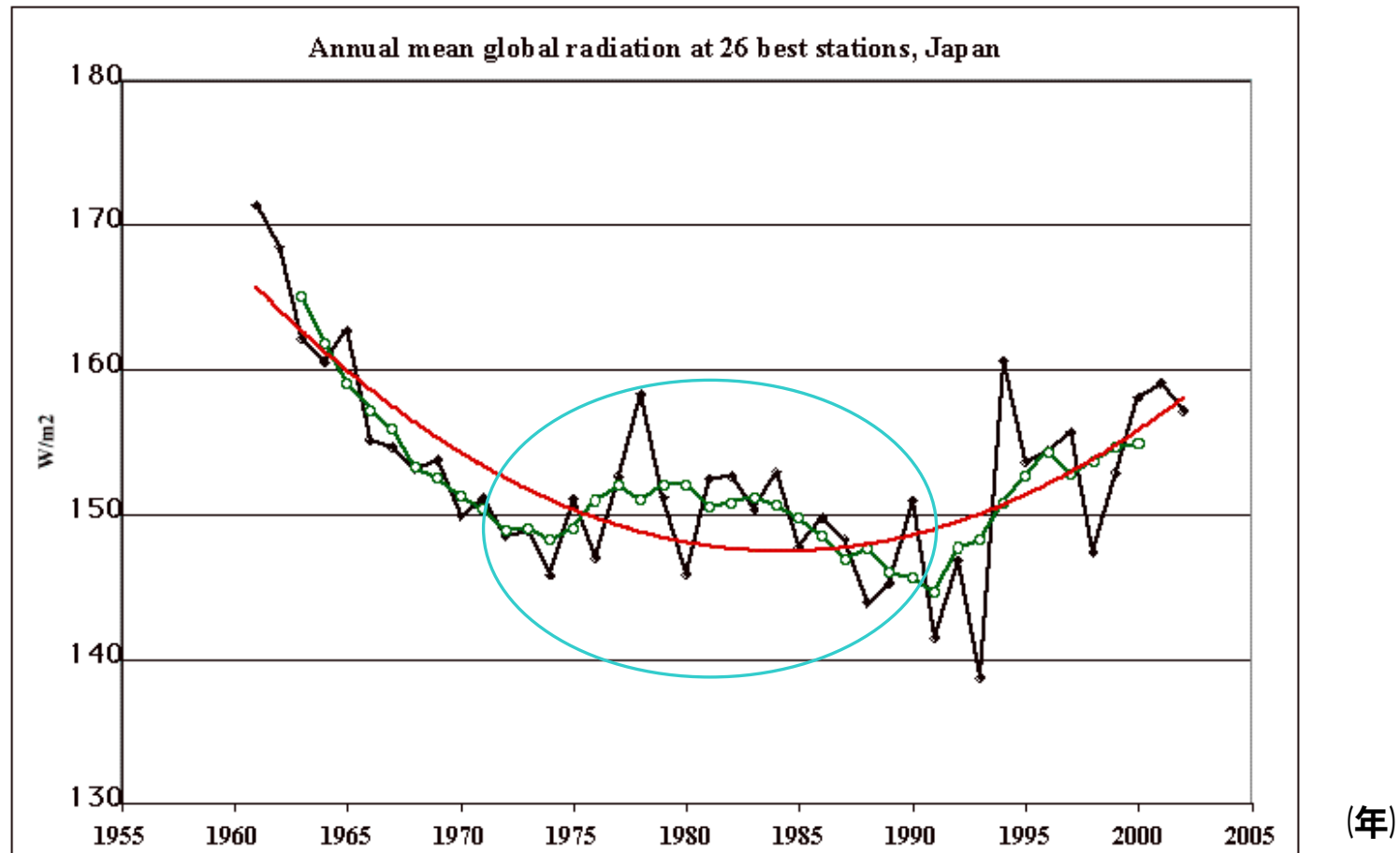
変動の大きな時期
1930-1950年頃
1980-2000年頃

年々の変動:
北日本 > 西日本

西日本

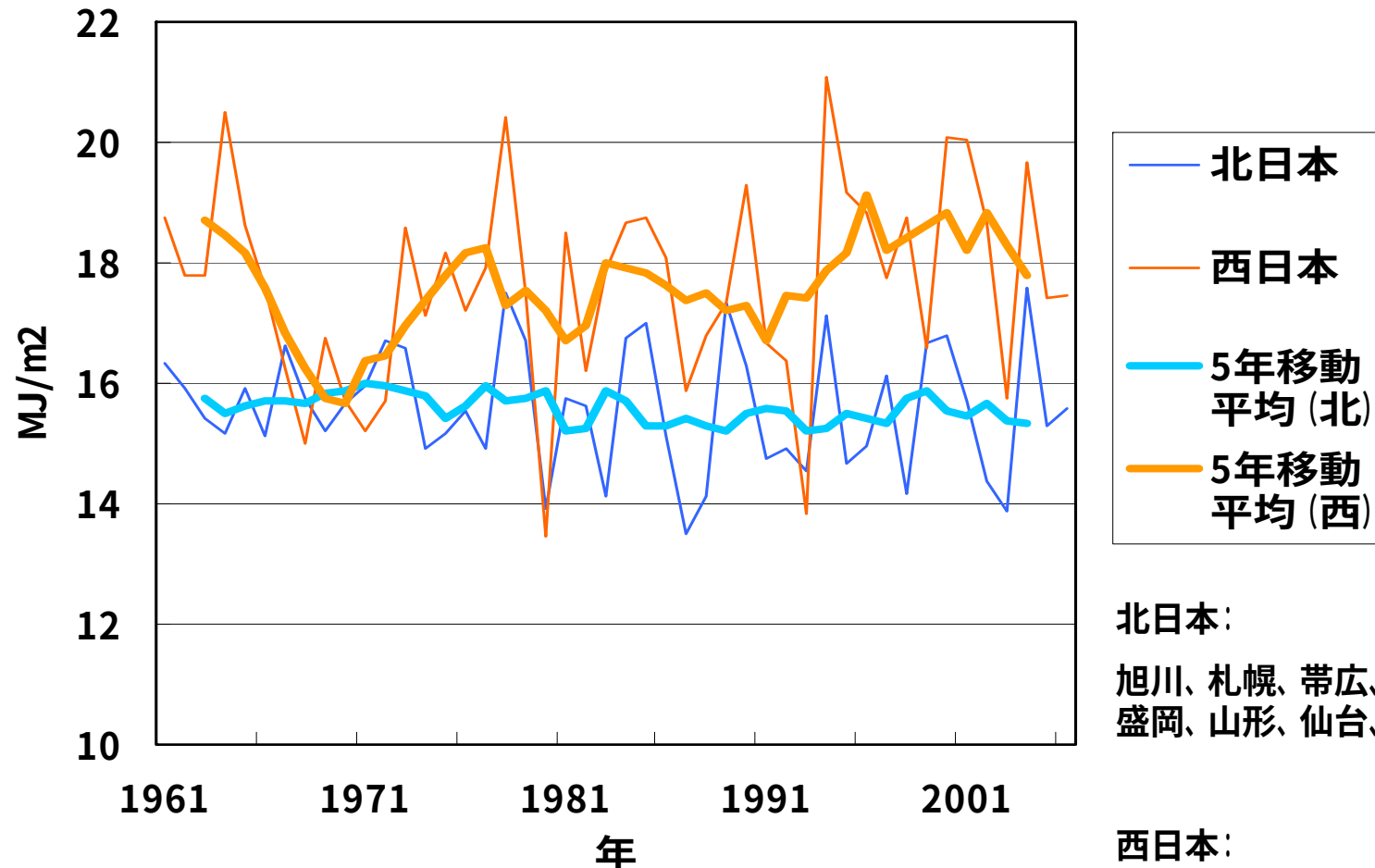


年の全天日射量の変化



「地球薄暮化」=エーロゾルの増加に伴う雲量の増加が原因？！
→ 全天日射量:1990年頃を境に減少傾向から増加傾向に

7-8月の全天日射量の変化 (1961年～)



明瞭な長期変化傾向はなし

→ 天候の影響が大きい

北日本:

旭川、札幌、帯広、根室、函館、盛岡、山形、仙台、小名浜

西日本:

浜田、彦根、下関、広島、大阪、奈良、佐賀、長崎、鹿児島、宮崎、松山、高松、清水

まとめ

- **全国的に最近30年の気温は上昇が大きい**
 - (地球温暖化) + (10年～数10年周期の自然変動)
- **7-8月の北日本の平均気温の上昇率は小さい**
- **7-8月の平均気温の年々変動(標準偏差)は西日本よりも北日本で大きい**
 - 北日本の標準偏差にも10年～数10年周期の変動がある
- **7-8月の全天日射量は明瞭な長期的傾向がない**
 - 天候の影響が大きい